



2023年11月に開催された平取町の物産展 なまらいいっしょ北海道フェア 2023

2023年11月11日、12日の二日間、
三軒茶屋ふれあい広場で開催されました。

振内町の「じゃんけんぽん」さんが「びらとり和牛」のハンバーグと二風谷にある「ムーブ」さんが「びらとりハム」を持って出店しました。今回も平取町商工会のご厚意により「北海道びらとり会便り13号」持参の方に「びらとり和牛のハンバーグ」か「びらとりハムのソーセージ」のいずれか一つを先着20名様にプレゼントが用意されていて、プレゼントをいただきました。平取町商工会の皆様、ありがとうございました。今回は、複数の平取町出身の方からお声がえ頂いたそうです。写真は当会の事務局長須藤さんと幹事の山口さんです。



デパートで開催されている北海道物産展とは趣が大きく異なる物産展です。手作り感満載で、会場内では北海道弁がどこことなく聞こえてくる雰囲気があります。今年も企画されているようです。会員の皆様、ぜひお出かけください。

■ ふるさと納税のお願い ■

新しく二風谷アイヌ工芸品が返礼品に加わりました。

私達は平取町への応援の一環として、平取町への「ふるさと納税」を推進しています。平取町のホームページ「暮らし・手続」にアクセスするか、又は下記にお問い合わせください。皆様のご協力をお願いします。

平取町役場 観光商工課 観光商工係
〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町28番地
TEL:01457-3-7703
FAX:01457-2-2277
E-mail:b.furusato@town.biratori.hokkaido.jp



訂正して、お詫びします

北海道びらとり会便り13号（2023年10月18日発行）の当会役員構成で幹事に林 一廣さん（小平）のお名前が抜けていました。正しくは以下のとおりです。訂正して、お詫びします。

幹事 清水 洋司（川向）
山口 繁（本町）
坂本 貢一（荷梁）
林 一廣（小平）

会 員 募 集

新規会員の勧誘をお願いします。
以下にご連絡をお願いします。

・平取町役場観光商工課広報広聴係
〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町28番地
TEL：01457-3-7703（直通）
FAX：01457-2-2277
koho.kocho@town.biratori.lg.jp

・北海道びらとり会会長 廿日岩 久典
〒247-0056 鎌倉市大船5丁目2-26-316
携帯 090-3246-4858
h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

・北海道びらとり会事務局長 須藤 孝夫
〒344-0038 埼玉県春日部市大沼4-43-2-306
TEL/FAX：048-735-6329
携帯 090-8344-3938
sudo2689@lagoon.ocn.ne.jp

皆様の投稿をお待ちしております

会員の皆様からの投稿をお待ちしています。便りを会員相互の情報交換の場としてもご利用下さい。内容は自由、字数、締め切り期日は問いません。宛先（廿日岩 久典）は以下のとおりです。

郵送の場合：〒247-0056 鎌倉市大船5丁目2-26-316
メールの場合：h-hisa@rg8.so-net.ne.jp
連絡先：090-3246-4858

編集後記

今年の総会は、7月27日、赤坂での開催となります。皆様多数のご参加をお願いします。再会を楽しみにしております。山口びらとり観光協会会長にはご多忙の所、特別寄稿頂きました。「地域観光の課題は観光協会のみならず、平取町が一体となって取り組むべき観光振興のあるべき姿であり、重要な要素だと考えています」。まさにその通りと得心しました。山内さんには、「星がつなぐ平取・わたし・マレーシア・香港」を投稿いただきました。写真で見る限りかなりの盛り上がりを感じます。ありがとうございました。びらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」から、二風谷ファミリーランドの桜並木のライトアップの写真を提供していただきました。いつも素晴らしい写真をご提供いただきありがとうございます。（廿日岩）。

東京 北海道びらとり会便り

2024.5.1

14号



「北海道びらとり会便り」第14号では、2024年度総会開催案内、一般社団法人びらとり観光協会会長山口尚之さんから「平取町の観光事業の現状と今後について」と題した特別寄稿文、また、当会の会計を担当されている山内銘宮子（西東京市）さんから投稿頂いた「星がつなぐ平取・わたし・マレーシア・香港」、2023年11月に開催されたなまらいいっしょ北海道フェアでの平取町の物産展などを掲載しました。紙面の関係上、故郷の思い出は休載しました。

「北海道びらとり会」は、関東圏在住者で平取町出身者及び平取町にゆかりのある方の交流と親睦を図るとともに平取町の振興発展に寄与することを目的に設立された会で、北海道に平取町という町が存在することをわかってもらおうという思いを込めて「北海道びらとり会」と命名しました。

撮影場所：二風谷ファミリーランドでの桜並木のライトアップ（R5年4月26日）
写真提供：びらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」
発行：北海道びらとり会
編集：廿日岩 久典 泉 典子
発行日：2024年5月1日

本年度（2024年度）の総会は7月27日（土）

2024年度北海道びらとり会総会は、下記の要領で開催します。多くの皆様のご参加をお願いします。

日時：7月27日（土）

総会・懇親会：14:00～17:00

場所：バンケットルーム赤坂 HITOTSUGI（ヒトツギ）

東京都港区赤坂4-2-3

ディアシティ赤坂一ツ木館2階

TEL 03-3560-5970

千代田線赤坂1番出口4分

銀座、丸の内線赤坂見附3分

会場の「HITOTSUGI」はアパホテル赤坂見附、一ツ木通りを挟んで、向かいのビルです。

会費：5,500円

内訳：懇親会費：5,000円 会費：500円

内容：総会及び懇親会

赤坂で開催

本年度の総会会場は、赤坂に場所を移して開催します。これまでの銀座とは趣が異なる可能性があるかと思いますが、ご期待ください。我が故郷、平取の思い出や友人の消息など大いに語り合う場として頂きたいと思います。また、懇親会の場を利用して、クラス会や同窓会を企画しては如何でしょうか。当日は平取町長をはじめ平取町の関係者の方も出席され、最新の平取町の話もお聞きすることができると思いますので、ご期待ください。

一般社団法人びらとり観光協会会長 山口 尚之さんの特別寄稿文

一般社団法人びらとり観光協会会長 山口 尚之さんから
「平取町の観光事業の現状と今後について」と題して特別寄稿していただきました。

平取町の観光事業の現状と今後について

一般社団法人びらとり観光協会 会長 山口 尚之

北海道びらとり会の皆様方におかれては益々のご健勝のこととお喜び申し上げます。北海道びらとり会便り発行に際し、廿日岩会長より「平取町の観光事業の現状と今後について」について、執筆の依頼がありましたのでお伝えいたします。

現在、平取町の観光はアイヌ文化を中心とした学習体験と特産品である「びらとり和牛」や「びらとりトマト」などの食による観光が主体となっています。道外での平取町の認知度はまだまだ低く、道内でも平取町の名称や特産品は

知っているが、場所や観光地としての認知度に関しても低い傾向にあります。また、交通の便の悪さから自家用車やレンタカー、バスツアーなどの手段も限られていることが課題であります。

私たち観光協会では観光での地域経済効果の波及を目的として、現在は観光プロモーションやイベントの創出、観光ツアーの協力などを実施しております。観光プロモーションでは、主に道央圏でのイベント出展を積極的に行い、特産品である「びらとり和牛」や「びらとりトマト」などの販売PR、道外でも埼玉県での北海道物産展への出展や大阪府での国内最大の旅行イベント「ツーリズムEXPO ジャパン」への参加などにて情報発信を行っております。

イベントの創出では、平取町への誘客を目的に人気アニメ「ゴールデンカムイ」とのコラボイベントの開催やアイヌ文化の魅力発信として「ニ風谷アイヌ民具コレクションカード」の配布などを実施しました。

また、観光ツアーではアイヌ文化体験やイザベラバードなどのコンテンツを中心にアドベンチャートラベルなどのインバウンドに向けたツアーの協力や観光庁の事業を活用した富裕層向けのツアーの造成などに携わっており、様々な活動を実施しているところです。

(一社)びらとり観光協会が設立し2年が経過しましたが、地域観光の課題はまだまだ残されているのが現状です。この課題は観光協会のみならず、地域と人がつながりながら、地域を越えた観光に町民が関わり、地域の自然や文化、食を生業に活かしていくことこそ、平取町が一体となって取り組むべき観光振興のあるべき姿であり、重要な要素だと考えています。

以上、平取町の観光に関わっては、外的を要因とする課題が多くありますが、皆様の故郷である平取町の次世代を担う子ども達はもとより、全ての町民が笑顔で誇ることができる観光地域づくりに向けて、全力を 尽くしてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



星がつなぐ平取・わたし・マレーシア・香港

山内銘宮子（西東京市）

こんにちは。北海道びらとり会役員の山内銘宮子（やまうち めぐみ）です。

役員のなかで唯一、平取出身でない私ですが、平取町とのご縁は、私が取り組んでいる「アイヌ民族独自の星の見方」の研究紹介活動がきっかけです。その前にも旅行で訪れたことがありましたが、2015年2月にシシリムカ文化大学に講師として呼んで頂いたことがきっかけで平取町との付き合いが始まりました。

私が研究紹介をしている「アイヌの星座」とは、アイヌ民族の自然観察力の高さやユーモアあふれる考え方、自然から授かった知恵の詰まった楽しい星の見方です。2011年から旭川出身の故 末岡外美夫さんが遺したアイヌ民族の星座に関する資料をもとに、オリジナルの星座早見盤を用いて、天文学的視点から北海道の自然と先人アイヌの知恵を伝えています。そんな私の活動も2017年頃から海外に飛び出すようになり、台湾、香港、マレーシアのみなさんと北海道の星空、アイヌ文化に触れ、楽しい時間を過ごすことができました。今回は昨年9月に行われたマレーシアと香港での講演のお話をしたいと思います。

新型コロナの影響による制限がなくなり、海外への渡航がスムーズになったことから、マレーシアの少数民族・セメライ族の星座を研究している天文民族学者の友人が講演会を開いてくれました。

マレーシアは赤道に近く、北緯2度の場所です。そこで北緯43度の北海道の空をどう説明しようか？様々なルーツを持ち、国民の半数以上がイスラム教徒という、宗教の異なるマレーシアの方たちに、日本の北海道の星空やアイヌ民族の自然観がどう受け取られるだろう？と、まるで未知との遭遇の感覚で挑んだスピーチでしたが、英語版の星座早見盤を制作し、表現を工夫しながら、通訳を通して楽しくお話をすることができました。

スピーチの最後は、いつもアイヌ語の「ありがとう」「イヤイライケレ〜」で締めくくりますが、聴講してくれたマレーの方から面白い質問を頂きました。マレーシアでは「Terima kasih（テレマカシ＝ありがとう）」といったら『sama-sama（サマサマ＝どういたしまして）』と応えるのが習慣です。アイヌ語の「イヤイライケレ〜」には、なんて返事をしたらいいの？と聞かれたのです。一瞬、ん？



マレーシア講演

と思ったのですが、「イヤイライケレ〜」には『イヤイライケレ〜』で応えるシーンしか見たことがないな？と、最後にはヒジャブを被ったマレーシア女子と「イヤイライケレ〜」と声を掛け合って終了しました（笑）

そして、マレーシアの後は香港へ。香港でのアイヌ星座の紹介は2018年に続き2回目、香港で最古の寺院・黄大仙（うおんたいしん）の自然教育施設での講演でした。香港は日本びいきの方もたくさんいて、日本の星文化、アイヌ民族の星座の話に興味深く聞いて頂きました。また、香港の講演は平取町から名産「ニシパの恋人」の応援も頂き、講演会の最後にニシパの恋人争奪ジャンケン大会を行いました！最初にプレゼントの抽選配分を多数決で決めたのですが、当選1人あたり2缶ずつ、1人が総取り…と選択肢を設けたものの、より当選確率の高い“当選1人あたり1缶”が圧倒的多数になりました。（意外と堅実な香港の皆様…）

香港の講演の最後は、ニシパの恋人を掲げての楽しい写真撮影で終了！マレーシアと香港、異なる文化をもった地域で、アイヌの星座を楽しんでもらえたことが私の2023年最大の思い出です。

最後に。今回、平取役場の遠藤町長、佐藤副町長、観光商工課 藤谷課長のご厚意により、平取町の資料や風景画像、ニシパの恋人をご提供頂きました。平取町の文化的景観をスライドで見せながらお話し、聴講のみなさんには平取町の風景も楽しんで頂けたと思います。実は…マレーシア、香港からそれぞれお礼のメールを送ったのですが、現地通信状況が良くなかったのか100日経ってどちらも不達エラーのメールが届き、きちんとお礼がお伝えできていなかったことが判明しました！！（大変失礼しました!!!）この場で当時状況を広くご報告させて頂くと共に、また改めて平取に伺って御礼申し上げたく思います。大変お世話になり有難うございました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

(今回、私の講演を聞いてくれた人が、1人でも多く平取に足を運んでくれますように…)



香港講演